

「アフリカ & ラテンアメリカ:ライジング・デザイン」

貴族の古代文明を呼び起こすアフリカとラテンアメリカ。そしていま、より特異性が顕著になった現代のインテリア。「アフリカ & ラテンアメリカ:ライジング・デザイン」は、マルヴァ・グリフィン氏の希望によりその徴候と意味のキラリティーを形にすることを目的とした展覧会で、その土地を熟知する者の手によって手掛けられました。

ラテンアメリカのパートでは、デザインを通して社会を変えることを目的とする非営利団体、カンパーナ協会の設立者でもある有名なブラジルのデザイナー、フェルナンド&ウンベルト・カンパーナ兄弟が担当、アフリカのパートでは、アフリカ・デザイン・デイズの創始者であり、WDO（世界デザイン機構）の運営委員メンバーでモロッコ人デザイナー、Hicham Lahlou が担当します。

この展覧会はサローネサテリテ 2018 のテーマとして生まれました。サローネサテリテの出展品と区別するため、キュレーターによって選出された 36 のデザインスタジオ及びデザイナーとキュレーター自身がビデオに映し出されます。

伝統や文化に関連して、画像や動画、アイデンティティを伝える方法について、デザイナーがどのようにコミュニケーションを計っているかを、職場で話す生きた会話などを通して紹介します。

スタイルの面でもアイデアの面でも、アフリカとラテンアメリカ諸国の生産が生み出している影響への関心を探ります。

1 本はアフリカ、もう 1 本はラテンアメリカ。2 本のツイン・トーテムは、約 10 メートルの高さで、下の部分にモニターが帯状に設置され、ビデオや画像、テキストが流れます。それぞれのエリアの小さな休憩スペースにマジスと Riva1920 の椅子が置かれ、壁はパトリシア・ウルキオラによる Mutina のセラミックタイルのコレクション、Celosia で覆われます。

アフリカのデザイナー 18 名:

Ahd Benzidan Casablanca (モロッコ), **AMWA Designs London** (イギリス), **Charles O. Job, Design & Architecture** Zürich (スイス), **Damola Rufai** Lagos (ナイジェリア), **Design without Borders Foundation** Oslo (ノルウェー) e Kampala (ウガンダ), **Dzeta** Tunisi (チュニジア), **Expand Design** Londra (イギリス), **Fatyly** Dakar (セネガル), **Fleury Atallah architects agency** Toulon (フランス), **La Marsa** (チュニジア), **Idir Messaoud** Yakouren (アルジェリア), **Marsiglia** (フランス), **Jean Servais Somian Design** Grand Bassam (コートジボワール), Parigi (フランス); **Jomo** Fairfax, Washington DC, (アメリカ), **Mabeo** Gaborone (ボツワナ), **Noumbissidesign** Parigi (フランス) Douala (カメルーン), **People of the sun** Blantyre (マラウイ共和国); **The Hague** (オランダ), **Studio-**



Lani New York City (アメリカ), **Lagos** (ナイジェリア) **Toronto** (カナダ), **Tekura** Accra (ガーナ), **Vakay** Sfax (チュニジア).

ラテンアメリカのデザイナー18名:

Alexandra Agudelo Bogotá (コロンビア), **Anabella Georgi** Caracas (ヴェネズエラ) **Berlino** (ドイツ), **Carol Gay Studio** San Paulo (ブラジル), **Cincopatasalgato** San Salvador (エルサルバドル), **Cristián Mohaded Studio** Buenos Aires (アルゼンチン), **Milano** (イタリア), **Estudio Guto Requena** San Paolo (ブラジル), **Frontis 3D** Bogotá (コロンビア), **Gloria Cortina** Città del Messico (メキシコ), **gt2P (Great Things to People)** Santiago (チリ), **Hechizoo** Bogotá (コロンビア), **Menini Nicola** Montevideo (ウルグアイ), **Moble** San Paolo (ブラジル), **MT Objects** Città del Messico (Messico), **Rodolfo Agrella Design Studio** Caracas (Venezuela) e New York (アメリカ), **Studio Tetê Knecht** San Paolo (ブラジル) e Losanna (スイス), **Thierry Jeannot** Città del Messico (メキシコ), **Tributo** Guadalajara (メキシコ), **Tu Taller Design Studio** Medellín (コロンビア).

「セルフビデオ」では3つの質問に答えています:

1. 祖国とその伝統が仕事に影響を与えているか?
2. どのようにその繋がりを表現しているか?
3. 文化的アイデンティティはデザインに大切か?

声や顔だけでなく、それぞれの自己表現方法も異なることで、無限の視点から新しいアイデアが溢れ、ユニークなメルティング・ポットとなって、サローネサテリテとミラノサローネのデザイナーと来場者へ、彼らの国から届いた絵はがきのようにメッセージを発信します。

ビデオインタビューは、デザイナーの作品のビデオカード。デザイナーのアイデンティティと出身国の特色を表現し、この展示用に特別に作られた作品を紹介します。作品ができるまでのプロセスもご覧になれます。

デザイン、アート、職人技、全てが混じり合う作品を手掛けるのは、3Dモデリングを使用するコロンビアの建築事務所 (Frontis 3D) や、チュニジアの眼鏡ブランド (Vakary)、そして中所得国の成長と発展にデザインを利用するノルウェーとウガンダを拠点とする非営利団体 (Design Without Borders) など様々なデザイナーたちです。

また、このプロジェクトには女性が多く参加しています。デザイナー (Anabella Georgi, AMWA Designs) のみならず、起業家 (Fatyly, People of the sun, Studio-Lani, Tekura) の姿も。そしてアーティスト (Alexandra Agudelo, Carol Gay, Gloria Cortina, Studio Tetê Knecht, Tributo) や、デザインと建築を手掛ける女性 (Dzeta, Fleury Atallah Architects Agency) も参加しています。更には、最近デザインシーンで名前が見られるようになったデザイナー (Ahd Benzidan, Idir Messaoud, Jomo) の姿もあります。

このようなカテゴリー分けとは別に、それぞれのデザイナーが特異性と革新的思考を持ち合わせています。更なる参加者を以下、ご紹介します：

新しいアフリカン・ミニマリズム(Charles O. Job)

前例のないデザインの解釈の誕生(Jean Servais Somian, Noumbissidesign, MT Object)職人技とデジタルの融合(Damola Rufai, Cincopatosalgato, Expand Design, Estudio Guto Requena, gt2P, TuTaller Design Studio)

社会活動のためのデザインのコミュニケーション能力(Rodolfo Agrella, gt2P)

環境問題の取り組み (Thierry Jeannot)

歴史の紹介 (Cristian Mohaded Studio, Hechizoo, Menini Nicola, Moble)

領土の発展のための起業活動(Mabeo)

地球の裏側から私たちへ、アフリカとラテンアメリカのいま現在のメッセージを運んできます。

マルヴァ・グリフィン氏のコメント

「3年前から「アフリカに注目を！」と言い続けてきました。実際、2015年に Weil am Rhein の Vitra Design Museum で メーカー・アフリカ展が開催されたのです。現代の視点で初めてアフリカ大陸の偉大な創造力とその概要を披露していました。それ以来、アフリカに注目が集まり、多くの展覧会が開催されました。ファッションでは絶え間なく新しいインスピレーションが引き出されました。そして、2017年デザイン・オブ・ザ・イヤーを受賞したガーナ出身のデイヴィッド・アジャイが手がけたワシントン DC スミソニアン協会国立アフリカ系米国人歴史文化博物館は、当時のアメリカ合衆国オバマ大統領が、最後の大きな仕事の1つとしてオープニングに出席しました。2018年サローネサテリテのテーマをアフリカにすることは当然の流れで、6月にモロッコのラバトで開催された「アフリカ・デザイン・デー」に参加したのち、確固たるものとなりました。同時に、ラテンアメリカ(中南米)も、ブラジルをはじめ近年頭角を現し始めており、テーマに取り上げることとなりました。もし、世界の文化がアフリカに由来するとしたら、プレ・コロンビアの文明が西洋の文明の誕生に先行していたということになります。そういった目覚めから今回の企画が生まれました。キュレーターには、現状をより模範的な手法で表現できるカンパーナ兄弟とヒシャム・ラルウしか考えられませんでした。カンパーナ兄弟は、ラテンアメリカやブラジルにおいて名を馳せており、ラルウも、アフリカ・デザイン・デー(そしてアワード)などを通してアフリカ・デザインの権威あるオブザーバー的存在です。36名の参加デザイナーが、今日のデザインが必要としているこの課題を今後も持ち続け役立ててくれることを願います。」

フェルナンド&ウンベルト・カンパーナ兄弟のコメント

「私たちは美的感覚豊かなデザインを目指しており、同時にクリエイション、開発力、熟練が生み出す美に対する情熱を伝えることも目的としています。人間の能力に代わるより正確な技術があっても、きっと何か欠けてしまうでしょう。モノ作りに注がれる情熱ほど、大切なものはありません。新しいアイデアが生まれないという不安を克服するためにも、常に学び、



創造し、動くことへの情熱を持ち続けることです。液体のように流れるデザインをあらゆる方向に向けられる能力と美しさをもつ人たちへの私たちからの贈り物。そして、より複雑でより冷たいハートへ流れてしまったものは、私たちの手で温めてあげるのです。」

ヒシャム・ラルウのコメント

「デザインはより良い未来を予測するという役割を担っています。明日のプロジェクトは、過去の全ての特質、歴史、遺産と、現在の大陸から生まれる遺産、世代間に存在する真の価値を考慮し尊重する必要があります。次世代のために何ができるかを考えることは、アフリカの未来にとって大切に、機能的で美しく必要とされるものを組み合わせることで、彼らの創造性、センス、意識がいま大陸の勢いに乗って開花しています。このプロジェクトを通して、私たちは台頭するアフリカの才能を更に発展させてゆく必要があります。」

ポルツィア・ベルガマスコのコメント

「この展覧会の作品は文化遺産です。祖国の地から離れても無意識のうちにその国の人間として行動するもので、デザインの普遍的な文化と融合して、アイデンティティはコミュニケーションと革新の鋭いツールとなるのです。」

リカルド・ベッロ・ディアスのコメント

この展覧会の準備にあたり、参加諸国の文化に触れ、現代の寓話と同時に、プリミティブな記憶を舞台にしたトーテムをデザインしました。選ばれた36名のデザイナーのビデオ、画像、ストーリーが電子テープ上を流れるバーチャル・ミーティングポイントです。

アフリカ & ラテン・アメリカ：ライジング・デザイン

4月17日～22日

Salone del Mobile.Milano

ホール：13-15, ロー・フィエラミラノ

マルチメディア・エキシビション

サローネサテリテ 2018

発案者

マルヴァ・グリフィン・ウィルシャー

サローネサテリテ創始者、キュレーター

キュレーター

ヒシャム・ラルウ(アフリカ担当) Hicham Lahlou (Africa)

フェルナンド&ウンベルト・カンパーナ(ラテンアメリカ担当)

コーディネーター



Salone del Mobile.Milano

Press

ポルツィア・ベルガマスコ

プロジェクト・セットアップ
リカルド・ベッロ・ディアス

カタログ
スタジオ・レグレンツィ

ビデオ制作
エルマンノ・メニーニ

インテリア家具

Magis
Mutina
Riva 1920

施工会社

Way Spa

制作

Salone del Mobile.Milano

2018年4月17日ミラノ

Salone del Mobile.Milano Japan Press PR

Yuki Yamamoto - yuki@milanosalone.com - www.milanosalone.com